

緑の分権改革推進会議第一分科会（第3回） 議事要旨

1 日時 平成22年10月12日（火）10時00分～12時00分

2 場所 中央合同庁舎第7号館14階共用会議室－1

3 出席者

委員：大杉委員、小田切委員（主査）、串原委員、高端委員、山口委員
ヒアリング団体：神奈川県小田原市、新潟県十日町市、岡山県瀬戸内市

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

①「緑の分権改革」委託調査実施団体ヒアリング

- ・神奈川県小田原市
- ・新潟県十日町市
- ・岡山県瀬戸内市

②第4回分科会の進め方について

③その他

5 議事の経過

<議事①>

各団体より、委託事業を含めた取組の説明を行い、その後以下の質疑応答・討議が行われた。

（神奈川県小田原市）

- 地縁型とテーマ型のコミュニティーの結びつけは必ず課題になるところ。説明の中であったように、養成講座のような形で両コミュニティーが一体的にやっていき徐々になじんでいくというやり方が非常に有効。
- 環境をテーマにうまくいっている事例として、環境というテーマの裏にある「孫や子供が将来安心して暮らせる地域」といったような身近な暮らしの部分を前面に出すと地元は理解しやすい。
- 特に山林や荒地地の再生・活用で地権者との関係等を聞きたい。

⇒ 今回モデルとして選定したところは、地権者と信頼関係のある検討委員が中に入ってやっていただいた。現在取り組んでいるところは、活動団体と地権者が個人的につながっている箇所なので、今後は活動と地権者のつなぎ方も課題かと思う。

○ 企業との連携については何か考えがあるのか。また、環境の問題だと多少広域的な連携が必要だと思うが広域的な連携については何か考えがあるのか。

⇒ 障がい者の施設に委託する等して環境と福祉の循環をねらった取組がある。企業との連携については、模索中だが具体的・限定的な提案をしないと企業も連携しづらいと思っておりそこが課題。

広域的な連携について、例として森林の保全で間伐体験イベントを2市8町の神奈川県西部広域行政協議会と横浜市、川崎市と連携しての実施を予定している。

(新潟県十日町市)

○ 重要なのは一集落だけでなく市内全体に取組の効果や教訓が及ぶような仕組みであると思うが、考え方を聞きたい。

⇒ 芸術祭で92集落に作家が入っているので、縁が切れなような仕組みを市の単独予算としてやっていきたいと思っている。また、地元新聞への記事化等を図っている。

○ 培ってきた新しいコミュニティーづくりを他の地域に広げることがないと、投入した国費が単なるイベントのために流れてしまうことが懸念される。

○ 入館者が2年で4万人だと、地域に食事や宿泊等でビジネスモデルになるような芽が出てきていないか。

⇒ 地元の米や野菜を使った料理を出す食堂を地元の主婦が経営してやっており、そういった面では輝ける場所になっていると思う。

○ 報告でそういった話があると夢が出てきていいと考える。

(岡山県瀬戸内市)

○ 説明の中で、市で全額補助していたものを無くしたことにより市民活動が無くなったので新たに2分の1の補助を作ったとあったが、それにより復活した市民活動はどのようなものがあるのか。

⇒ 一番はイベント。一度無くなってしまい火が消えたようになってしまったが、市民自らの誇りを取り戻せたかと思う。

○ 自転車の協議会にしてもそうだが、市民の姿が見えない感じがする。2分の1でも自己負担しながら頑張ろうという活動の中に何かヒントがあるような気がしてならない。

⇒ 観光ルートを作る中で、耕作放棄地に菜の花を植える等の活動を市民の方に応援いただきたいと考えている。

○ 補助金が半分になったということで出し方の工夫、例えばお金を集められる仕組みが無ければ採択しないといったような方向の展望はあるのか。

⇒ 仕組みとしては地域でプレゼンしていただき採択するという方法。地元企業に協賛を依頼する等、地域自らがお金を集めるという動きが出てきている。

○ 協議会のメンバーはどんな方か。住民参加がどれくらいあるのか関心がある。

⇒ 大学の先生や商工会、婦人会等団体の長の方がメンバーになっているが、ワークショップ形式で進めるようにしており、その中で住民の方に参加いただき、地域の掘り起こしをしていくこととしている。

<議事②>

事務局より、資料の説明を行い、その後以下の質疑応答・討議が行われた。

○ 自治体の取組を整理する目的として汎用性のあるモデルを作ることだったかと思うが、様式のイメージを具体的に聞きたい。

⇒ いくつかのモデルをワンペーパーで表す。それに加えて詳細な資料を付けるというイメージ。今後の作業で、ヒアリングいただいた団体や委員の団体を参考にまずはモデル（案）を作っていければと思っている。

○ 1つのモデルとして完成されたものが、どこまで他団体の参考になるのか懸念がある。要素を抽出して選択できるような形にした方が汎用性はあるのではと個人的には思う。

⇒ 基本は1つ1つの取組をある程度抽象化して、そういう基本構造の部分と具体の取組を示していく。具体的な取組について今はいくらでも調べられる環境にあるが、やはり〇〇市だからできたという思い込みがあると手をつけかねる部分があるので、このような形を提案した。ヒアリング団体や委員の方に協力いただき、作業をしていきたい。

以上

(文責：総務省地域力創造グループ緑の分権改革推進室)